

園 長	施設長	記録者
		

社会福祉法人駿河会 地域密着型サービス運営推進会議【藁科】

日時 令和7年 11月14日 13:30～14:00

会場 ラポーレ駿河相談室

出席者

園長	川崎誠之	地域代表	森朝世	こだま	小林由季
施設長	佐野雄基	地域代表		嘉響	加藤真子
所長	稲葉紀和	地域包括	山部記彰		

事務局

本日はお時間をいただきましてありがとうございます。
早速ですが駿河会の地域密着型サービス運営推進会議を始めたいと思います。

本日の議題は令和7年度上半期の実績報告等について、嘉響・こだま双方の担当者より報告させていただきます。

●添付資料

※こだま・嘉響報告原稿

それでは、ここからは こだま、嘉響の順で、各担当者から報告させていただきます。

こだま（小林） 添付書類参照

嘉響（小黒） 添付書類参照

事務局

以上、こだま、嘉響における令和7年度上半期実績の報告でした。
各担当者は、もっとお話ししたい事があると思います。
森さんから、「こんなことを聞いてみたい」というような事がありますか？

森委員

嘉響さんの利用枠は現在どんな状況ですか。



嘉響加藤氏

ありがたいことに現状で各曜日ともにほぼ定員いっぱいとなっています。

森委員

デイサービスの稼働については上下することがあるかと思いますが、営業を続けていくことが大切だと思います。

私が住んでいる地域はもっと高齢者がいると思っていたが、人口も減っていることで福祉サービスを利用する人も減っています。買い物に行くことも困難な方がいるので、デイサービスで買い物に行く取り組みはとても良いと思います。

自宅から隣の家までの距離が遠く、人が少なくなった、村が寂しい印象があります。一人で暮らしている人などに夕方に電話を入れてくれるサービスもあるみたいだけど、そういった取り組みはありますか？

包括山部氏

配食型見守りサービスがありますが、お弁当を頼まないと実施できないので、ただ見守りや連絡を入れるようなサービスは現状ありません。

家電製品の中にはポッドを使用すると登録されたアドレスに連絡が行くなどの物もあります。

森委員

私自身も考えることがありますが、一人になった時のことが心配になることがあります。独居老人に一日一回でも連絡がとれたりする方法がやサービスがあると良いなと思います。

終わりの挨拶

川崎園長

地域の為にいろいろと活動される中、お忙しい中お越しいただいてありがとうございました。貴重なご意見を頂き、今後事業所として対応していく事柄等を検討して動いていきたいと思っています。

本日はありがとうございました。

事務局

皆さま、様々なご意見ありがとうございました。これで会議を終了とさせていただきます。次回開催時は準備ができ次第ご連絡差し上げるように致します。

本日はありがとうございました。

デイサービスセンターこだま令和 7 年度上半期実績報告

地域密着推進会議
令和 7 年 11 月 14 日

★上半期実績

	令和7年度(9月時点)	令和6年度(9月時点)
延べ利用者数	989名	693 名
1 日平均利用者数	6.34名	4.42 名
新規利用者数	8名	4名
終結者数	8名	4名
登録者数	22 名	13 名
収入	1150万円	924万円

※9月5日 台風の為、営業中止

※時間短縮利用 4 名

【利用者の年齢】 58才から 100 才 平均年齢 88 才

90歳代 52%、80歳代 32%

【送迎範囲】 大川方面は檜尾 清沢方面は中塚

羽鳥方面は、栄町、昭府、新伝馬

・近況報告

以前よりも、利用者要望を柔軟に取り入れることで、令和7年1月頃より、問い合わせが増加して、登録者数も倍近くになりました。例えば、1日利用する事が大変な方やなどに対して、時間短縮をして、入浴と昼食摂取して帰宅するところから始め、利用する事に慣れてから、1 日利用できるようになった方もいます。

終結者の内訳としては、前年度と同様に体調を崩され自宅での生活ができなくなり、施設や病院で生活されるようになった方が大半でした。

要介護度は、何年かぶりに、要支援の方も利用されるようになりました。要支援 1 から要介護 5 までの方が利用されています。特養への入所可能な要介護 3

以上の方が、半数を占めていますが、ご家族や他のサービスと協力し、在宅生活を継続されています。

★令和 7 年度活動について

前年度は、『こだまに相談してみようと思える関係づくり』という事で、居宅介護支援事業所や包括支援センターに、こだまの魅力を伝えてきました。今まで繋がりのなかった事業所からの問い合わせも来るようになりました。

問い合わせの中で、この数年間になかったケースもあり、対応方法に悩むこともありました。

令和 7 年度は、『病気や障害があっても自宅で暮らし続けられるこだまになる』という目標を立て、自分たちの対応力を高めるために、外部研修に参加して、必要な知識を得て、対応に繋がっています。

課題としたところは、①褥瘡予防、処置方法 ②福祉用具 ③病気の知識 ④ポジショニング です。主に褥瘡に関しては、布団で休息してもらう際、昔からの布団を使用していました。クッション性も悪く、悪化に繋がってしまう為、マットレスや福祉用具のクッション、スライディンググローブを検討して、良いポジショニングをすることが出来るようになりました。利用当初は、10cm程に大きな褥瘡でしたが、福祉用具の利用と、訪問看護、家族、ケアマネとの連携もあり、現在は完治する事ができました。

今後も、利用者にとって必要だと感じることは、対応できるように新たに取り込んでいきたいと思います。

★地域に向けた活動

・ごみ箱作り

利用者と職員が、広告や新聞を折り、施設に寄付しています。

R7 年度第2回 地域密着型運営推進会議

2025/11/14 デイサービスセンター 嘉響

1.令和 7 年度 上半期実績

	【令和 6 年度上半期】	【令和 7 年度上半期】
延べ利用者数	1690 名	2167 名
(内訳)	総合事業:564 名 地域密着:1126 名	総合事業:797 名 地域密着:1370 名
1 日平均利用者数	10.84 名	13.89 名
稼働率	60%	77%
収入	1550 万円	1840 万円
新規利用者	7 名	19 名
終結者数	3 名	8 名

今年度上半期は、トレーニングマシン導入前から広報誌での発信を始め、導入後や導入後の効果についても発信することで、機能訓練を目的とした問い合わせや体験利用が大幅に増加しました。特に、体験利用者の 9 割が機能訓練目的での利用となり、高い割合で本利用へと繋がっています。

終結者数は、前年同期より 5 名増加しましたが、入院による在宅復帰が困難な方や長期利用のない方によるものでした。

2.2025 年度 品質目標について

①既存プログラムの検討、変更

今年度も昨年度に引き続き、『顧客に選ばれる嘉響になろう』を目指して、活動しています。

その具体的な取り組みとして一つ目に、昨年度、ニーズ調査で高かった機能訓練への需要に応じ、昨年 12 月にトレーニングマシンを導入しました。マシン導入後は安全性を確保するため、サービス提供方法やプログラムを毎月見直し、環境整備に努めた結果、上半期においてトレーニングマシンに関連する事故やヒヤリハットは発生していません。

また、昨年の利用者満足度調査で要望が多かった屋外機能訓練を今年度から再開し、スーパーや 100 円ショップで 3 回実施しました。これは「買い物」という実際の生活動作を通して、歩行量の増加、商品選択、金銭管理による認知機能の維持を図る生活に密着したリハビリテーションです。利用者様にとっては、「自分で好きな商品を選べる喜び」や「最近買い物に行きたくても行けないから店内を歩けない不安もあったけど、実際に買い物出来たことによる自信」に繋がったという声が聞かれ、高い効果が得られています。

②居宅、包括に対する広報活動

二つ目の取り組みとして、広報活動にも注力し、上半期に 2 回広報誌を発刊しました。トレーニングマシン関連や季節に合わせたおやつを提供、利用者様の日常などを記事として載せ、嘉響での活動が見えやすく工夫しています。

今後はこれらの活動に加え、他のサービスに関しても、プログラムを見直し、「嘉響で良かった」と心から満足して頂ける様、質の高いサービスを提供していきます。

3.その他トピックス

R7 年度法人活動目標のひとつである”地域住民が地域で住み続けることができるための活動”として、法人の PR も兼ねて地域の活動拠点の訪問を計画しており、6 月には赤沢の S 型デイサービスに嘉響の理学療法士や介護職員が訪問させていただきました。自宅で出来る運動としてペットボトルを使った運動や脳トレを兼ねたレクリレーションなどを紹介、実践し、同じ地域に住む利用者様にとても喜んでいただきました。